

大会時・コロナ禍での取組

- ・2019年頃：交通緩和に向けた取組を開始（物の流れ）
- ・2020年：2020TDM推進プロジェクトに参加
- ・2020年4月頃：テレワーク機器の導入・準備
- ・2020年秋頃：オンラインでの商談が増加

人の流れ

きっかけ

以前より実施

オリバラ

コロナ禍

- テレワーク・・・実施率約7割（請求書対応等で入替出社あり）
- オフピーク通勤・・・フレックス制を導入
- 会議等のオンライン化  
特に食品メーカーの工場等ではオンライン商談が主流になった
- 手続きの電子化  
社内決裁はコロナ禍前より電子化。社外はFAX含めPDF化し、メールで送受信（決算上必要な書類は承認後に紙媒体で保管）

物の流れ

きっかけ

以前より実施

オリバラ

コロナ禍

- 都内への中継地点の設置  
大型車で都内の中継地点にまとめて夜間搬入し、そこから2t車等で目的地まで配送することで、効率的な配送を実施
- サプライチェーンと連携した取組  
物流会社が提供する共配便を活用
- 配送の集約化  
・毎日配送を曜日配送に変更（主に納品先が少ない地区）  
・食品工場が1つの地域など、共同配送が難しい所では、毎日でなく2日に1回の配送、土曜配送の中止等を実施
- リードタイムの緩和

取組ポイント

- トップダウンで取組を開始
- 試食等による商品提案はサンプルを送付して実施
- コミュニケーション確保のため、オンライン会議でのカメラ使用や上長との個別ミーティングの実施を推進

取組ポイント

- 物流会社と連携して検討
- コスト面だけでなく、物流の持続可能性向上に着目
- 事前に発注量を想定するなど計画的な仕入れを実施
- 協力工場とは1~1.5カ月程度の長めのリードタイムを設定

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

テレワーク

現在実施率3割程度。輪番制として週2~3回をテレワークとして継続。今後、就業規則に規定する予定

オフピーク通勤

会議等のオンライン化

サテライトオフィスの設置の検討

その他、感染症対策としての執務室の二分割については、コミュニケーションの観点から、ローテーションでの定期的なメンバー入替なども検討可能性あり。

物の流れ

検品の簡素化

取引先の要望等により、今後、協力予定

配送時間の変更

午前指定の需要が集中しがちだが、特に繁忙期等は物理的に難しいことも多い。時間指定の撤廃など、配送時間を分散できるようにしていく必要あり

リードタイムの緩和

上記の取組等、サプライチェーン全体で連携し、物流の効率化や生産性向上に向けて取組を広げることに賛同

【東京2020大会を振り返って】

- ・2020TDM推進プロジェクトへの参加は、大会時の交通影響についての情報収集が目的だった。毎日お客様に商品をお届けする部門であるため、物流の対策を講じていきたくかった。
- ・2020年初めの頃は営業車を使用していたため、交通規制に関する情報を見て営業とも共有していたが、コロナ禍でオンライン商談が主流になり、営業車利用が激減した。